

7月16日

テーマ：「悔い改めの祈り」

聖書箇所：ダニエル9章3節～19節

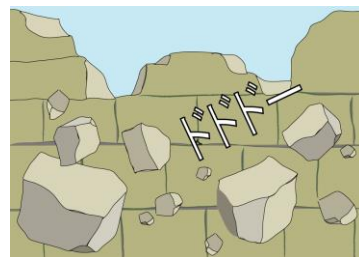
◆今日のみことば

主よ。不面目は、あなたに罪を犯した私たちと私たちの王たち、首長たち、および先祖たちのものです。あわれみと赦しとは、私たちの神、主のものです。これは私たちが神にそむいたからです。ダニエル9章8～9節

◆メッセージ

もし自分が出席している教会の礼拝堂が、誰かによってめちゃめちゃに壊されるようなことがあったらどうでしょう。それは恐ろしいことであり、また悲しいことですよね。

実は、イスラエルの人たちは、それと同じような、いやもっと大変な出来事を経験しました。今からおよそ2600年前に、イスラエルの人たちは、バビロンという国から攻撃され、神さまを礼拝する大切なエルサレムの神殿を破壊され、さらに奴隷としてバビロンの国に連れて行かれてしまったのです。神さまに愛されていたはずのイスラエルの人たち



なのに、どうしてこんなに

ひどく悲しいことが起きてしまったのでしょうか。

それは、イスラエルの人たちが偶像礼拝という罪、まことの神さま以外のものを礼拝する罪を犯したからでした。その罪に対するさばきとして、神さまはバビロンの国を用いてエルサレムの神殿を破壊し、イスラエルの人たちを奴隷としてバビロンの国に連れて行かせたのです。偶像礼拝に対する神さまのさばきは本当に厳

しいのです。日本には神社参拝など、いろいろな偶像礼拝がありますが、それらに加わることはないように気をつけましょう。

さて、その出来事から47年が過ぎた頃、ダニエルさんは預言者エレミヤさんの書物を通して、神さまのさばきを引き起こしたイスラエルの人々の罪を知ったのでした。その時ダニエルさんは、自分には関係のない昔の人たちの罪とは考えないで、まるで自分の罪のようにそれを告白し、神さまに赦しを願ったのでした。そんなダニエルさんは神さまに喜ばれ、「神に愛されている人よ」と呼ばれています(10:19)。

私たちが罪に気付いたら、素直に認め、神さまにごめんなさいとあやまって赦しを求め人になりましょう。自分の罪だけでなく、自分の家族や教会や国のためにも祈る人になりましょう。

◆お祈り

「天のお父さま、罪に気付いたときには神さまを恐れて素直に罪をみとめ、罪の赦しをいただき、神さまの祝福の中を歩むことができますように助けてください。」

(東御キリスト教会牧師 辻浦信生)